

平成 27 年度 第 1 回福井市行政改革推進委員会 会議概要

- 1 開催日時 平成 27 年 6 月 2 日 (火) 9:30～11:35
- 2 開催場所 市役所第 2 別館 22 会議室 B
- 3 出席者
- (1) 委員 南保勝 委員 (委員長)、内山秀樹 委員 (副委員長)、稲葉明美 委員、
今村善信 委員、岡山宇太郎 委員、奥村清治 委員、黒川俊枝 委員、
齋藤万世 委員、澁谷政子 委員、田村洋子 委員
- (2) 福井市 「福井市行財政改革指針」(平成 22～26 年度) 及び
「福井市行財政改革指針 (改訂版)」(平成 27～28 年度) の取組計画担当所属
- (3) 事務局 総合政策室

4 会議次第

- ・ 開会 (市民憲章唱和)
- ・ 協議 (1) 「福井市行財政改革指針」(平成 22～26 年度) 実施報告について
(2) 「福井市行財政改革指針 (改訂版)」(平成 27～28 年度) 取組計画について
(3) 平成 27 年度外部点検の実施について
(4) その他
平成 27 年度福井市行政改革推進委員会 開催予定
- ・ 閉会

5 協議の概要

委員長	まず、協議事項 (1)「福井市行財政改革指針」(平成 22～26 年度) 実施報告について及び(2)「福井市行財政改革指針」(改訂版)(平成 27～28 年度) 取組計画について、事務局から併せて説明を。
総合政策室	【説明】
委員長	ただいまの説明に対し、何か意見、質問等はないか。
委員	昨年度の外部点検でも担当したところなのだが、福井市の総合ボランティアセンターの役割が理解しきれていない部分がある。現在、NPO の管轄は県になっているので、NPO の決算報告、相談等は全部アオッサ 7 階のふくい県民活動・ボランティアセンターに行く。国際交流関係のボランティアは国際交流協会から連絡をもらい、福祉関係はだいたい社協から案内が届く。総合ボランティアセンターというのは、いろんなどころに点在している活動を集約してくれると考えてよいのか。それとも、総合ボランティアセンターへ行っても、国際交流は国際交流、福祉は社協というふうバラバラなのか。また社協はフェニックスプラザへ移る

<p>男女参画・市民協働推進室</p>	<p>とも聞いているのだが、そのあたりがどのように統合されるのか教えてもらいたい。</p> <p>NPO 法人について、認証、会計等のチェックは県でしている。福井市の総合ボランティアセンターというのは、なるべくいろいろな方にボランティアに関わっていただくための活動をするのが1番大きな目的である。ボランティア活動を広げるためのいろいろな施策・事業を行っていくなかで、ボランティア情報を提供するということもある。その情報の中に、先ほど委員がおっしゃった国際交流や福祉、いろんな機関で実施されるイベント等の情報をまとめて発信できるような形にする。それによって一般の方がちょっと参加してみようかと思ってもらえるような情報発信をする。ボランティアに参加したいなと思っていただけるような簡単なボランティア講座やイベント等を行っていく。それぞれの社協や国際交流会館でもやっているのだが、そこと連携して一緒にやっていくことになる。社協がフェニックスプラザに移るのではというご質問であったが、確かにそういう話で進んでいると思う。ただ、社協のボランティアセンター部分はなくなるわけではなく、そちらと連携する形でやっていく。</p> <p>総合ボランティアセンターであるので、いろいろな分野のボランティアを取扱い、広く市民の方にボランティア活動をお知らせして興味を持っていただき、市民活動をされる市民の方が増えるよう支援することを目的としている。</p> <p>具体的な事業内容については、今年度計画を策定して他との連携についても整理し、来年度の開業に向けて準備をしていく。</p>
<p>委員</p>	<p>ぜひ連携をしっかりとっていただけたらと期待している。</p>
<p>委員長</p>	<p>ボランティアをする人を育てることがメインにあるということなので、今までの組織がなくなるわけではないということである。</p>
<p>委員</p>	<p>指針（改訂版）No.6「公共施設等の総合的な管理による老朽化対策等の推進」の取組計画の中で、（仮称）福井市公共施設等総合管理計画を策定するとある。市内には多くの市の所有する施設があり、これを一元化して管理していくというのは非常に大事だと思う。ただ、それぞれの地域によっては必要とされるものもあれば、不必要とされるものもあると思うので、この計画を策定する場合に地域の声をどういう形で入れる予定をしているのか聞きたい。</p> <p>また、求める効果で公共施設等の適正管理、財政負担の軽減化とあるが、このなかに今あるものを有効活用するという効果も求められるのではないかと思う。有効活用という言葉が入っていないが、これも必要なのではないか。新しいものをどんどん作っていくのではなく、今あるものを有効に使うということが大事なのではないかと思うのだが、どう考えているか聞きたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>2つ質問が出た。1つは地元の声はどう反映した形で運営していくのかということと、今あるものを上手く使っていくということについて、どう考えているか</p>

<p>施設活用推進室</p>	<p>ということ。</p> <p>市内に現在ある施設の中には、地域に根付いた施設、例えば公民館や学校等が多数ある。もちろん、こういうものについては有効活用していく。どんどん新しいものを建てる、建てかえるのでは当然財政負担も大きくなり、現在子どもが減って学校の中に余裕教室がある状態なので、有効活用して財政負担を減らす。また、公民館や学校は地域にとって大変重要な施設であり、防災の拠点の避難場所という位置づけもある。そういう地域に根付いた施設を公共施設等総合管理計画の中で、今後財政負担を減らしながら有効に活用するためには、それぞれの地元の考え等を十分考慮し、行政が一方向的に進めるということではなく、地域の声を常に聞きながら進めていく必要があるということは十分に認識をしている。</p> <p>そして、有効に活用するという点については、取組計画②の施設マネジメントの推進という項目の中で触れられている。例えば、学校の余裕教室を放課後児童育成の教室にうまく複合化したり、あるいは市全体にいろんな施設が点在している場合の集約化や、ひとつの施設について複数の機能の集約化など、複合化という視点を常にとりいれながら、財政的な負担を増やさずに、有効活用という視点で取り組んでいきたいと考える。</p> <p>あと、公共施設等総合管理計画の中身には、いわゆるハコモノと言われるものばかりではなく、道路、橋といったインフラ施設等もあるが、性質上、道路と何かを複合化したり、道路を集約化して道路の本数を減らすということは現実的にはなかなか難しい。このようなインフラ施設については、どうしても長寿命化という視点が中心になるかと思う。</p> <p>こういったことを常に整理しながら、有効活用の視点で取り組んでいきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>今の公共施設の管理の話に関連して、特に住民サイドから見ると住民自治に関連する地域の施設のこと、周辺地域の過疎ということを考えるといわゆるコミュニティの合併ということも視野に入れざるを得ないと思う。都心部でも将来的には空洞化していく場面も訪れるだろうということなので、先の話かもしれないが、コミュニティの再編のあり方に関しての話になる。担当部門も違うかもしれないが、そこと連携したり、その話をきちんとしたり、施設の統廃合等の話をしたりしていく必要があると思うが、そのあたりの部門同士の連携や話はどのようにしているのか。</p>
<p>施設活用推進室</p>	<p>施設を集約化、複合化していくうえでは、ひとつは先ほど申しあげた地域の声を聞く視点と、人口減少を見据えた視点が必要。福井市にはたくさんの地域があるが、都市部や農村部など、それぞれ特性がある。施設マネジメントを進めるためには、ハコモノなどハードの観点からだけ進めるわけにもいけないので、当然コミュニティのあり方も考えていかなければならない。例えば自治会機能や公民館、学校の果たす役割など。それぞれ所管する部署があるので、こういうところとも十分協議を進めながら、福井市としての考えをまとめていくなかで連携して取り組んでいく必要があると考えている。</p>

委員	<p>今年度から施設マネジメント計画を実施に移すので、委員からいただいたご助言をとらえて進めていく。一方的な縦割りのなかで進んでいかないよう努力をしていきたい。</p> <p>指針（改訂版）で、取組計画をあげてもらっているのだが、どうやったら達成となるのか、どこが目標とする成功数値なのかというものが無いと感じている。資料1「福井市行財政改革指針（22～26年度）実施報告」で、継続するか終了するか載っているが、なぜこれが終了という判断ができるのかとか、なぜこれを継続しなければいけないのかという判断する数字があまりないように感じる。例えば、これから2年間取組をするのであれば、2年後までにこの分野でここまでやれば終了として別のテーマに移るといった記載があまり見られない。もちろん、ずっと継続しなければいけないものもあると思うが、そのへんがちょっとあいまいだと感じた。</p> <p>また、例えば求める効果で、効率的・効果的と言っている取組計画があるが、何をもちょう効率的、効果的としてこれは終わるとか、これは思ったとおりでできたとするのか。たぶんPDCAをまわしたときのチェックが難しいのではないかと感じている。今回の指針の計画は2年という短い期間であるので、ある程度ターゲットは決まっているのではないのか。指針にもりこまなくても各部署で目標を持っていて、1年後にチェックをしてこれだけ進んだ、2年後の次の行財政改革指針が変わるときに、これだけ進んだので終了して次にいく、これはまだ続けなければいけないという評価が必要なのではないのか。</p>
総合政策室	<p>今回、第六次福井市総合計画に合わせるため2年間の計画に改訂しており、過渡期の指針ではあるが、委員がおっしゃるような観点で達成をどこまで見込んで、目標をどこにおいて、どこまで達成したかということは、報告のときに示させていただきたい。</p>
委員長	<p>数値目標というのはある程度必要で、個人的には、数値目標はある程度高く設定したほうが良いと思う。そのほうが、そこに向かっていくアグレッシブさができる。そうでないとごんまりとまとまってしまうので、たとえ達成できなくても夢を大きく持っていていただくような、そういう目標を設定したほうが良いという感じはする。達成できなくてもそれをもって責めたりはしないので。一生懸命やっているところについては、それなりの評価はさせていただくので、よろしく願いしたい。</p>
委員	<p>資料2「福井市行財政改革指針（改訂版）取組計画」No.13「住民主導のまちづくり活動の推進」の取組計画について、「自治会加入促進の強化」とある。自治会に加入している人は8割に満たないと思うが、いつもチラシが同じで、ただ自治会に加入してくださいと書いてある。もっと何か加入してもらうためのアピール方法はないのか。具体的にどう考えているのか。</p>

<p>行政管理室</p>	<p>自治会に加入していただくためには、みなさんの意思決定が必要であるので、そのための資料は必要かと思う。また、反対される方、なぜ自治会に加入しなければいけないのかという意見の方もいらっしゃる。そういう方への説明というのは今後も続けていかなければならず、パンフレット等以外にも、例えば、自治会へ説明に来てもらいたいとか言われた場合に出向いて説明をさせていただいたり、集合住宅や不動産関係の業者に出向いて説明させていただいたりということをしている。一気に効果がでることは難しいかもしれないが、地道に説明を続けていこうと考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>大変だが努力していただいて、1人でも多くの方に必要性を知ってもらえるといい。地道な活動だが、よろしく願いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>同じ取組について伺いたい。中山間地域のコミュニティの活性化というのは大変だと思うが、集落支援員と地域おこし協力隊が想定されているのは、自治会活動の支援ということが範囲なのか。それとももっと大きくとらえて、産業とかインフラとかの問題も関わってくるのか、どのような課題設定での目標なのか聞かせてもらいたい。</p>
<p>行政管理室</p>	<p>中山間地域について、集落支援員と地域おこし協力隊という2つの制度がある。両者とも人口減少や高齢化等を考えて生活扶助機能の低下や地域の活性化について今後どのように対応していくかという、自治会活動を越えた考え方で支援をしていく。より身近に住民の方に寄り添ったり、今後のことについて検討したり、地区のすばらしさをアピールしたりという内容である。</p>
<p>委員</p>	<p>他の部署との連携体制はどうなっているのか。</p>
<p>行政管理室</p>	<p>例えば、集落支援員については美山にいるのだが、行政管理室へ報告があがってくるので、活動についてはこちらでも把握して、必要に応じて各担当課へ相談等をしている。また、越廼に地域おこし協力隊が配置されているが、こちらについては越廼総合支所とも連携して活動についての報告が行政管理室へあがってくるので、同じく担当所属との協議を行っている。</p>
<p>委員長</p>	<p>27年以降は、組織の縦割りにいかに横串をいれるかというところがある。これからだと思うので、よろしく願いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>指針（改訂版）では改善計画が盛り込まれていて、今後、このようなところに力を入れていきたいというのも分かる。また、詳細に記載すると大量になってしまうので、これだけにまとめた形になってしまうのも分かるのだが、他の委員がおっしゃったことも含めて、どのように資質向上するかとか、計画を遂行していけばどんなことを得られるのかというところを、もう少し具体的に分かりやすいところまで踏み込んでもらえたらと思った。</p>

総合政策室	<p>2年間という短い間でこれだけのことの結果をだすというのは大変なことであるので、もちろん考えているのだと思うが、こちらに書いてある記載だけでは、あまり感じ取れなかった。</p> <p>取組結果は最終的に分かりやすく報告させていただきたい。この2年間で試行錯誤をしながら、次の指針では、最初からもう少し分かりやすい形で取組内容も記載させていただきたい。</p>
委員長	<p>いかに見える化、見せる化するかということである。そこまでやらないと、市民の方には、なかなか伝わらないのかと思う。工夫をしていただければと思うので、よろしくお願ひしたい。</p>
委員	<p>私たちの活動も見えないと何をしているのか分からない。行政の「～に推進します」「～に取り組みます」ということの中身が見えてこないというのが一番の課題である。我々委員にも分かりにくいので、一般市民も分かりにくいだろうと思う。</p> <p>あと、最近「若者、若者」と若者ばかりが中心になっているように聞こえる。「若者と高齢者」「子ども達と高齢者」みたいな取組も進んで、縦割りではなく横の連携が進むことが一番行政にとって必要なのではないかと思う。そこに行ったらすべて分かる人を配置するようなことも、これから考えていってほしいと思う。</p>
委員	<p>一番理想的なのは、ワンストップサービスみたいに、一箇所で完結できる組織、サービスかなと感じる。パフォーマンスばかりやっても仕方がないのかなとも思うが、一生懸命やっているのに外から見えないのも損をしてしまうので、うまくバランスをとれるといいかなと感じる。</p>
委員	<p>資料3「H27年度外部点検の実施」についての資料の中に第六次福井市総合計画の体系図がある。最近の話題は、Iターン・Uターンばかりで、それぞれ市町が取組を行っているようである。先ほど地域コミュニティの地域おこし協力隊の人達が越廬にいるということであったが、実際住民との横のつながりはどうかとか、あと、Iターン・Uターンを若者世代にだけ一生懸命言っていて世代間交流・交代が取組項目のなかに入っていないと思った。今、福井に住んでいる人達、住んでいる子ども達が外に行っても帰ってくるという意識付けをする事業が指針（改訂版）において抜けている。考えているのかもしれないが見えない。事業はたぶんやっているのだと思うが、なぜ、指針（改訂版）の取組に現れてきていないのか。</p>
総合政策室	<p>事業としてはやっているが、取組項目にはしていない。ただ、地方版総合戦略を作っているなかで、人の流れをつくる部分などで非常に重要になってくると思う。今回の指針（改訂版）にはその部分が入っていないが、今後別のところでや</p>

委員	<p>ることはいろいろ考えている。</p> <p>この5年間というのは、量的なことも大事だけれども質的なことも重要という話であったが、量的なことというところで、どうとらえたらいいかというところを確認したい。5年間の実績で数字があがっているものを計算すると、税収の未収納分を回収したという数字も合わせると、ざっと117億ほどになるようである。そして、福井市の会計が特別会計も含めると約2,000億円くらいだったと思う。だいたい117億円を5年間で割ると、20億円ぐらいで、そうすると、2,000億円に対して20億円ぐらいの削減で、約1%ぐらいの削減ということになる。この数字が正しいかどうかも含めての話なのだが、こういう行財政改革をする場合、他の自治体と比較して、この1%ぐらいというのが頑張った数字なのかどうか、それとも他はもっといいのか、我々はこの数字をどうとらえればいいのか聞かせてもらいたい。</p>
総合政策室	<p>行財政改革の報告で、どれだけ削減できたかというところは分かりやすいポイントだとは思う。今回の実施報告書の取組結果のところでも削減に関する記載はさせていただいている。積算すると、だいたい100億円くらいになると思うが、重複がある。人件費部分が大きく、職員数の適正化や人員削減等を行ったという実績があり、その他、公立保育園の民営化や、その他補助金制度の再構築等を整理すると数字が出てくるが、行財政改革は財政削減だけではないというところがあって、あまり数字にしばられるのはどうかというところがある。100億円というのが財政効果として大きいのかどうかということは、内部的には整理をしたのだが、公にアピールするポイントにはならないのではないかと考えている。</p>
委員	<p>財政効果を出している自治体もある。出すのがいいのかどうか、出して市民が納得するかどうかというところで難しい面もある。内部的には把握して成果があがっているということであればいいのかなとも思う。</p>
委員	<p>先ほどIターン、Uターンという話があった。最近すごく騒がれているが、言葉だけは昔からある。私の子どもが卒業するときもIターン就職、Uターン就職といった案内をもらった。行政はずっと取り組んできていることだと思うが、そういう形で取り組んで成功した事例とか、こういう活動を継続してきて、こういう成果がでてきているということを見える形で出してもらえると理解しやすいと思った。</p>
総合政策室	<p>Iターン、Uターンへの取組はこれまでもしていたのだが、あまり中心的な事業ではなかった。県が東京や大阪に「ふるさと帰住センターUターン就職支援センター」を作っていたので、そこに相乗りする形であった。Uターンだと、大学等で県外に出て、どれくらい戻ってくるのかというのも、なかなか正確には把握できていない状況もあるのだが、できるだけそういう数字をつかんで、どういう取組をしていけば、Uターンで戻ってくるのかを真剣に考えて、成果等を分かり</p>

委員	<p>やすく公にしていきたい。</p> <p>なかなか難しいところである。福井の学生だと7割は県外に出て行ってしまっ て、特に女子の場合は、戻ってくるのは2割だというのが問題になっている。こ れはもう自治体の限界である。産学官金連携とっているが、これはもう総力戦 で自治体のせいにはできない。上場企業があると人も戻ってくるから、ファンド でもつくって上場企業を一社でもつくる。これは民間が入らないとどうしようも ないと思う。これからそういう方向に行くとは思うが。</p>
委員長	<p>それでは、時間もきたので協議(1)(2)についてはこれで終了させていただき たい。</p> <p>指針取組計画担当所属は退席してください。</p> <p><指針取組計画担当所属退席></p>
委員長	<p>それでは協議事項(3)平成27年度外部点検の実施について、事務局から説 明を。</p>
総合政策室	<p>【説明】</p>
委員長	<p>今まで第六次福井市総合計画に沿った体系で事業選定をやっていたが、そこに テーマ性を持たせて、全体から事業を選定して点検したいという提案である。</p> <p>事務局からは「人口減少社会への対応」というテーマ案が出されたが、本日、 委員からのご意見をいただいてテーマを決めていきたい。</p> <p>仮に「人口減少社会への対応」でいくとしたら、これから人口を増加させるた めにどうしたらいいのかという施策もあれば、人口はもう減少してしまうのだから 、何を削っていくかというマイナスの方向性でみるものがあるかもしれないのでは ないか。両方の視点でみる必要があるのではないか。なかには「縮小」との評価に なる事業もあるかと思うが、人口減少のなかでは縮小でもいいのではないかと思 う。</p> <p>2つめの提案は、事業数が多く昨年も点検が大変であったので、少し事業数を しぼりこんでもいいのではないかとということ。個人的には、12事業ぐらいでもい いのではないかと考えている。</p> <p>3つめの提案は評価基準。「再構築」がいい方向に再構築なのか、悪い方向に再 構築なのか、分かりにくかったという委員からの意見をふまえ検討したものが、 資料の案である。評価基準の見直しについて、委員のみなさんから意見をいただ いて、中身を充実させようというものであるので、忌憚のないご意見をいただけ ればと思う。</p>
委員	<p>「人口減少社会への対応」というのは、事業を選ぶテーマにならないのではな</p>

	<p>いか。結局、現在が人口減少の時代だという見方はこれまでもあり、今後も変わらない。だからここにお金をかけるべきかどうかというのは、どの事業を選んでも同じようになってしまうと思う。そうだとすると、人口が減ったなかで減らすべき対象のものをどう減らしていくか。お金がかかるところを、どうお金がかからないようにするのかという話にしかならないと思う。</p> <p>このテーマだと、例えば人口減少のなかでスポーツをどうしようか、文化をどうしようか、コンパクトシティにするためにどうしようかという話は、結局、人口と税収にしか関係してこないように感じるので、テーマとしてふさわしくないのではないかと思う。</p>
委員	<p>地方創生、人口対策、産業育成と言われるが、結局は地方創生なのだと思う。そのなかに人口減や産業育成等も入ってくるので、要は地方が栄えることを目指さなければいけないのだろうと思う。</p> <p>人口が減少することが必ずしも地方が衰えていくことと私は思わない。ある一定規模が日本の社会にとってバランスのとれた人口規模のはずである。そのなかで福井県は2040年に63万人になるといわれているが、数字にとらわれてしまうのもいかなものかと思う。</p>
委員	<p>22年も26年も福井市の人口は減っていて、状況はこれから2年もおそらく変わらないと思う。テーマを設定したところで見方が変わるのかと言われるとそうではないと気がする。むしろ、無いお金を削らなくてははいけないという、さびしい話になってしまう。</p>
委員	<p>点検事業数よりも、まずテーマを決めないといけないのではないか。</p> <p>我々は、改革して良くしていくという委員会であるので、人口が減少しても豊かな生活ができる仕組みを提案していくのが仕事だと思う。人口減少と言われるが、私の地区は逆に人口が増えている。ただこれは、順化地区や宝永地区に住んでいた人がこちらへ来ているから増えているだけなのだが、他ではリタイアした高齢者を受け入れるところがあったり、あるいは若い人が結婚して出産すると高額な手当がでるなど、いろんな方法をやっているところがある。人口減少は避けられないのだが、もう少し高齢者を含めた、これからの社会をテーマにできればいいのではないか。福井市でも高齢者はこれからどんどん増えてくるので、「高齢者を含めたこれからの社会への対応」というのをテーマにしてはどうかと思う。</p>
委員	<p>私も、県がUターンやIターンを提唱しているなら、福井市は現在にいる人をいかに出さないように、福井市がこんなにいるんだということを提唱し、人口が減っていてもいいという施策を出してもらいたい。人が帰ってくることをあてにして、何でもつぎこむよりも、高齢者も安心して住め、駅前が高齢者が歩いても大丈夫だという地域になると良い。優秀な人は帰って来て、またその施策をやってもらえばいいので、今いる人達に最大限福井に住み続けてもらえるよう</p>

<p>委員</p>	<p>に、高齢者を含めて、いかに子どもたちが出ていかないかというところに持って いってもらいたい。</p> <p>総合計画も見直しの時期であるので、第六次福井市総合計画の総括的な場面に 合わせるといいのではないか。</p> <p>人口減少社会、高齢化社会が到来することは分かりきっているので、コンパクト シティを目指そうというのがある。また高齢化が進むなかで、施設での福祉から 地域や在宅での福祉へ移していこうという話がある。あと、少子化という背景 から、どこでも婚活をやりはじめた。コンパクトシティから始まっているんなこ とをやってきた一連のものを一度、総括的な視点からみることは意味があるのか なと思う。</p> <p>今、世間で良く言われている、Iターン、Uターンというだけの話に乗ってしま うと、目先が少し変わっただけの議論をして、結局結果も出ずにまた次へ行っ てしまうということがあるので、そういうことに乗せられないほうがいいのでは と思う。</p> <p>総括というのは、これまでやってきてどうだったのかということで、いくつか のテーマがあると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>Iターン、Uターンという話がでたのだが、先日、東京府中市に住んでいる大 学時代の友人と会ったときに、6,000万円弱で家を建てたという話を聞いて驚い た。福井では、住宅にそこまでの負担がかからないし、仕事や生活など、何か都 会にない福井の魅力ということ考えていければ、福井っていいんだなと思ってく れる人もでてくるのではないかと思うので、テーマにも盛り込んではどうかと思 う。</p>
<p>委員長</p>	<p>今までの事業の総括というのも悪くない。あと、魅力アップに関わる事業をピ ックアップしていても良い。今きれいなテーマのキーワードが出てこないのだ が、そういうのもいいのではということをおっしゃられたのだと感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>テーマを設定して事業を選んでいくというのは、考え方としてはいいと思うの だが、選ぶときに施策がそういう形になっていないので、テーマは設定したけど、 結局ぼやけてしまうというのが予想される。</p> <p>第七次福井市総合計画策定の時期に合わせてテーマを設定して、政策と施策の 関係を整理したうえでだったらもちろんいいのだが、もうすでに決まっている中 で後付けで選んでいっても、ちょっとかすっているものだけしかひっばってこれな いようなことが懸念される。</p> <p>また、事業の選び方として1施策1事業とされているのだが、私はどちらかと いうと1施策に関係する事業をすべてみたいという気がする。1施策に複数事業 があった場合、1つだけ見るのではなく、関連する事業を合わせて見ると全体が 見られるかもしれないという感じがした。</p> <p>施策から選んでいかなければいけないという現実を考えると、テーマを設定す</p>

	<p>るというよりも、例えば「福井の魅力」ということで選んでいくというのはいいと思うのだが、それで事業1個だけを点検するというだけでは結局効果的でないような気がしている。</p>
委員	<p>テーマという大げさなものではなく、どういう観点、視点で選ぶかということ。それが一環していると、それがテーマということではないか。</p>
委員	<p>高齢者にあまり重きを置かずに、全体から見て決めていくほうがいいと思う。高齢者のことというのは、他の所属でもいろんなところで検証しているので、ここでわざわざ点検する必要があるのだろうか。</p>
委員	<p>福祉関係は事業も多く、多岐に渡る。</p>
委員	<p>テーマはこのままでいいのではないか。視点を明確化するという事で、人口減少というマイナスのところから入ってしまったのだが、柱の中で見える化されていないということは全部このなかに入っているということではないか。</p> <p>点検対象事業をピックアップするだけのテーマなので「人口減少社会への対応」で全然おかしくない。人口減少という問題や、地域が活性化するための連携、世代間交流、地域コミュニティへの投げかけという視点でも話ができると思う。「人口減少社会への対応」というと問題があるのかもしれないが、今、人が減っているけれどもいいのか、悪いのかという視点でみれば良いのではないかと思う。先ほどの話だと、結局広くなりすぎて、施策の中からひとつずつ選ぶことになってしまうのではないか。</p> <p>我々の意識のなかの共通化、視点の明確化としては、1つのところに立つのではなくて、2つの方向から見ていくということを確認しておけば、総合的に見ていけるのではないかと思った。</p>
委員	<p>事業全部が当てはまってしまうのだとすると、このテーマで選んだとしても結局しぼれないのではないか。昨年も人口が減っているから、このサービスは圧縮できて効率化が図れるとか、これをやらなければいけないからサービスを拡大して福井市として住民の満足度を上げようということは、たぶん外部点検をするときに価値観として、みなさんにあったと思う。</p> <p>今、改めて「人口減少社会」というテーマを設定しても、たぶん昨年と見方が全然変わらないのではないのかというのが私の考えである。</p>
委員	<p>昨年はそういうテーマというか視点を置きながら事業を見ていたわけではない。我々個人の興味関心のある事業を選んだという側面があった。そういう意味では、ひとつの軸になるものを前提に選びましたほうが、選びやすいし、また議論もしやすいのではないか。</p>
委員	<p>「維持」とかという評価よりも、見える化しているかどうかという評価のほう</p>

	<p>がずっと良い。市民に分かってもらっているのか、理解してもらってやっている事業なのかという評価をしたほうが良い。</p> <p>事業仕分けではないということが前提にあるなら、いろんな意見が出てくるといのは当たり前の話になってくる。今やっている事業が本当に市民に伝わっているのか、伝わっていないのか、一生懸命やっても空振りしているのかという評価をいろんな人の視点で評価を受けて、それに対してパブリックコメントなど、いろんなことをすればいい。行政改革推進委員の10人で評価しているだけでなく、プラスアルファの人達に意見を聞くという評価の仕方もあるのではないか。他の委員のおっしゃっていることとずれるのかもしれないが。</p>
委員	<p>「人口減少」というと、マイナスイメージが強い。もう少し前向きなイメージのテーマのほうがいいと感じた。</p>
委員	<p>27・28年度で41施策ということなのだが、41全部を見なければいけないのか。それとも、我々がテーマで選んだ30だけを見るということでもいいのか。</p>
総合政策室	<p>昨年度、20施策に属する事業を提示させてもらったが、実際には委員会の中で1施策1事業にとらわれずに、点検したい事業を選んでいただいた。結果的に点検していない施策が出ているので、こちらから提示したなかで委員会で決めていただければよい。</p>
委員	<p>人口減少というのは、福井だけに限らない。日本中のどこでも、東京ですらも減り始めていて、特に本市だけの問題ではない。そのなかで、似たような規模の都市と比較して、福井市が特に減っているとか、劣悪な環境になっているとかということはないのではないか。</p> <p>私の娘の友達は県外から福井に来て、兄弟にも福井はとてもいいと勧めて大学に来ている。ただ、その先、定住してもらえるかどうかは経済的な問題が出てくるので、また別の努力が必要なのだと思うが、現在、福井がすごく劣っているとか、住みにくいとか、人口減少になってどうしようもないとは感じておらず、どちらかというと住んでいて楽だと思っている。そういういいところがあって、人口減少にも対応できるというところ、これから先、もっとこういうところを伸ばしていこうという見方ができるタイトルのつけかたを考えたらどうか。</p>
委員	<p>今までのような右肩上がりのサービスをやっていただけなので、人口が減少していてもサービスをしていけるかどうか、できているかどうかという視点の切り替えができていけるかどうかということを見ればいいのか。</p>
委員	<p>人口減少社会だからこそ、やらなければいけない、もっと予算をつけなければいけないという部分がある。そこを我々が理解していれば、いいのかなという感じはする。</p> <p>テーマは、若干長くなってもいいと思う。極端な話、キーワードだけでなく、</p>

総合政策室	<p>100 字ぐらいになってもかまわない。それくらいでないと伝わらないかもしれない。人口減少社会という、ネガティブな見方で終わってしまってしまうかもしれないので。</p> <p>テーマはこうさせてもらって、前向きな観点も含めて候補を選ばせてもらいたいと思っている。</p>
委員	<p>テーマが 100 字になってもいいと言ったのはそういうところである。前向きな観点を含める内容を括弧書きで明らかにしておかないといけない。例えば、するかどうかわからないが、テーマをバブコメにかけたとすると、一方向からしか見ない人もいると思う。それを防ぐために、例えば人口減少社会の施策のあり方として、括弧をして「人口減少の対策」とか、「人口減に対応した施策になっているか」とか、いくつか切り口が出てくると思う。そこを少し挙げてもらったほうが、誤解は防げるのではないかという感じはする。</p>
委員	<p>ネガティブワードとポジティブワードの2つが入っていることを示すということ。「人口減少社会での幸福度 No. 1 の街」とか。そこからみると、これは増やさなければいけない、減らさなければいけないというのがあるかもしれない。</p>
総合政策室	<p>まとめて、委員長に相談させていただく。</p>
委員	<p>私は地方創生というのが 1 番好きである。これで全部が含まれるから「地方創生のための施策のあり方」というのが本当はいいのだが。人口減をどうするか、産業育成をどうするか、市民生活をどうするかなど、いろんな切り口があるので。地方創生、人口減対策、産業育成とそれぞれ挙げたら一緒なことばかりで、全部、地方創生でくくれるのではないのかというのが私の考え方である。私は、人口減が必ずしも不幸をまねくとは思っていない。</p>
総合政策室	<p>テーマで「地方創生」というのも考えたのだが、すべて前向きになってしまって一方的にとらえられるのも困ると思い「人口減」がテーマとしてあり得るかと思った。テーマについては、もう少しいただいたご意見を整理して委員長と相談させていただく。</p>
委員長	<p>おそらくみなさんの意見は一緒で、後は表現の仕方だけだと思うので、私も考える。</p> <p>あとは、事業総数だが、最低 12 事業くらいまでしぼって中身を厚く点検したほうがいいのかということをご提案したい。</p>
委員	<p>今まで 1 日に 3~4 事業点検して全部で 20 事業を点検していた。それを 12 事業にするなら、2 日で点検するというのではなく、2 事業ずつ 3 日で点検するというのも考えられるのではないかと。今までは時間が足りなかった。</p>

委員長	その点については、また次回、点検事業を決定するときに決める。
委員長	あとは、評価基準について単純な形にしたいと思っている。今までは「再構築」というのがよく分からず迷った。
委員	<p>「再構築」というのは、その事業を単独で存続させるのではなく、他の事業と統合したりという方向を考えるということではないか。</p> <p>「要改善」は改善の余地ありで、「再構築」は「廃止」のジャンルに入る感じ。一旦、廃止するけれども、本当にやる必要があるならば、他の事業と統合して考えてください、組み立てなおしてくださいという感じではないか。</p>
委員	この事業はいいけれども、今やっている中身では満足できないから「再構築」という感じ。
委員	「再構築」が「要改善」の中に入ってしまうと、今まで思っていた「再構築」と感覚が違ってしまう。
委員	<p>「拡大」は今までの方向性でもっと力を入れて予算もつけてやってもらいたいという感じ。だから、並ぶ順番にも意味を持たせて「拡大」「要改善」「縮小」としてはどうか。「要改善」はもう少し改善の余地があるのではないかということ。「縮小」は予算規模をもう少し縮小してもいいのではないかということ。あとは、「再構築」をどう扱うかなのだが、「廃止」の中で生き残る道としてが「再構築」としては。「廃止」の「再構築」と、「廃止」の「廃止」と。</p>
委員	「廃止」は言葉がきつくて言いにくいので「再構築」にしていたというところがあった。
委員	「廃止」をなくして「再構築」にしてはどうか。今まで外部点検をしてきても「廃止」という評価結果はなかった。
総合政策室	結果として統廃合した事業はあったが、他の事業と連携して再構築するべきというご意見であった。
委員	昨年は「再構築」と評価されても、対応はあまり再構築の中身とはなっていなかった。「再構築」になると、結局は生き延びたという感じがある。
委員	「廃止」のなかの「再構築」だと危機感もあるのではないか。
委員	「再構築」から拡大した事業もあった。

委員	前向きな「再構築」というのもあった。
委員	そういうのは、これからは「拡大」になるのでは。
委員	「拡大」「要改善」「縮小」、あとは「廃止」か「再構築」としたほうが分かりやすいのではないか。
委員	「廃止・再構築」としてはどうか。
委員長	では、「廃止」のところは「廃止・再構築」とする。
総合政策室	それでは資料3の6「評価の基準等」で、「要改善」のなかにある評価基準の③を「廃止」に移動させていただく。
委員長	「拡大」が一番上に上がって、「拡大」「要改善」「縮小」とする。
委員	「維持」というのは、あり得るのか。
委員	粛々とやらざるを得ない事業ということだと思うが、それを外部点検するべきなのか。あまり議論の余地がないものが多いので、いらぬのではないか。
委員	そもそも、対象事業としてあがってこないのではないか。
委員	予算ベースで何も変わらないところは、何かコメントを書くことになるか。「拡大」はがんばってくださいとか、「要改善」は、これからの時代をにらみながらこんなところを工夫してください。「縮小」は予算も縮小するし、それはなぜかというコメントもつくと思う。
総合政策室	昨年まで「維持」と「維持（要改善）」を区別していただくためお願いしていたのは、「維持（要改善）」は予算的にも〇〇すべきであるというご意見の場合、「維持」は〇〇してもらいたいと言った要望的なご意見の場合と整理させていただいていた。今度からは要望的なご意見のものも「要改善」になるということか。
委員長	課題があると思って点検したら「維持」でいいとなるものもあるかもしれない。「維持」は残してもらいたい。そして「拡大」「要改善」「縮小」「廃止・再構築」としてもらえると分かりやすいと思う。 事業数と評価基準はだいたい承認いただけたということで、あとは作文をするだけ。
委員	1事業1時間というのは決まっているのか。

委員長	事業数が変わったら、点検時間が変わってくる可能性はある。
総合政策室	7月に事業数が確定し、2班でどのように点検するかを検討させていただいてから決めさせていただく。
委員	フレキシブルに考えようということではないか。
委員長	それでは次にその他について。「平成27年度福井市行政改革推進委員会 開催予定」について、説明をお願いしたい。
総合政策室	【説明】
委員長	何かご意見、その他協議事項はないか。
委員長	他にないので、これで協議を終了する。